

忠義のために生きた男たちの物語



令和4年度優秀映画鑑賞事業

弁天座懐かし映画劇場

赤穂浪士



令和4年

12月18日

新型コロナウイルス対策

政府と全国公立文化施設協会のイベント開催ガイドラインを踏まえた新型コロナウイルス感染拡大対策にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

- 咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒の徹底
(体温が37.5度以上の発熱が確認された場合は入場をご遠慮させて頂く場合があります)
- 館内での食事を禁止(水分補給についてはかまいません)
- 館内は、空気清浄機の設置や空調による換気を実施しています

◆上映時間

- ① 10:00 (開場 9:30)
- ② 13:30 (開場 13:00)
- ③ 16:30 (開場 16:00)

◆入場料 500円(当日も同じ)

販売所: 弁天座、高新プレイガイド
県民文化ホール、のいちふれあいセンター他
ローチケ(Lコード: 63549)

- ◆主 催 : 弁天座運営委員会・国立映画アーカイブ
- ◆共 催 : 香南市歌舞伎でまちづくり実行委員会
- ◆特別協力 : 文化庁・(社)日本映画製作者連盟・全国興行生活衛生同業組合連合会・(株)松竹
- ◆お問合せ : 0887-57-3060 (弁天座)



〈出演者〉

大石内蔵助:片岡千恵蔵
脇坂淡路守:中村錦之助
堀部安兵衛:東千代之介
浅野内匠頭:大川橋蔵
上杉綱憲 :里見浩太郎
柳沢出羽守:柳永二郎
立花左近 :大河内伝次郎
清水一角 :近衛十四郎
堀田隼人 :大友柳太朗
吉良上野介:月形龍之介
千坂兵部 :市川右太衛門
大石主税 :松方弘樹

〈スタッフ〉

原作:大佛次郎
脚色:小国英雄
監督:松田定次
撮影:川崎新太郎
照明:山根秀一
録音:東城絹児郎
音楽:富永三郎
美術:川島泰三

「忠臣蔵」あるいは「赤穂浪士」は、時代劇映画の中でも特別の位置を占めている。初めて映画となったのは、一説によれば1907(明治40)年12月に公開された『忠臣蔵五段目』、十一代目片岡仁左衛門の襲名を記念して撮影されたもののようである。これ以降、2010年の『最後の忠臣蔵』(杉田成道監督)や2019年の『決算!忠臣蔵』(中村義洋監督)まで膨大な数の「忠臣蔵」が作られてきた。映画製作会社にとっても、「忠臣蔵」はその発展ぶりを示す格好の題材であった。歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」をもとに、講談における義士銘々伝、浪曲における本伝、外伝など長い大衆芸能の伝統の中で、場面場面は洗練されており、個々の役柄に芝居の見せ場が用意されているからである。この『赤穂浪士』は、両御大と呼ばれた片岡千恵蔵、市川右太衛門、さらに大河内伝次郎、月形龍之介といった戦前からの時代劇スターに、登り坂の若手俳優を配して製作された東映の創立10周年記念映画である。

(カラー/シネマスコープ/モノラル/151分)



弁天座住所:〒781-5310 高知県香南市 赤岡町本町795